

みみタロウ

にほんごばん ☆ 131号 2019年4月

しがけんこくさいきょうかいぼらんていあぐるーぶ「みみタロウ」
おおつし はま びあざおうみ
大津市におの浜 1-1-20 ピアザ淡海 2F
Tel/Fax : 077-523-5646
E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp
URL : http://www.s-i-a.or.jp
f : https://www.facebook.com/siabiwako



しよどう み 書道に魅せられて

～ 今回みみタロウは、書道を学んでいるウソフ スタニスラフさん(東近江市)にお会いしました。～



わたし ねんまえ ろしあ らいにち
私は4年前、ロシアから来日し、
いま たんかいしよどう ぶんか せんもん がっこう
今、淡海書道文化専門学校で
べんきょう わたし にほん
勉強をしています。私が日本で
しよどう べんきょう
書道を勉強するようになったのは、
おそらく けたいく に じょうきょう
おそらく家庭や国の状況などの
はいけい
背景があるのかもしれない。

わたし くに ろしあ きんねんおお こつかたいせい へんかく
私の国、ロシアは近年大きな国家体制の改革がありました。
た。1917年の革命で、ロシア帝国はソビエト連邦という社会
ねん かくめい ろしあ ていこく そびえとれんぽう しやかい
主義共和国となりましたが、1991年にその体制は崩壊し、
ろしあ れんぽう
ロシア連邦となりました。今でこそ様々な文化を自由に謳歌
でできるようになりましたが、ソビエト時代は資本主義の国々と
そびえとれんぽう
ほとんど交流のない鎖国時代に似た状況で、数少ない友好
こく
国であった日本との交流は、当時の人々にとって外国文化
にほん くに ろしあ
に触れる貴重な機会となっていました。私の祖母も日本画
の かんえん などを にかい
カレンダーなどを入手すると、使用期間が終わっても
たいせつ
大切に、絵の部分を取り取って飾ったり友達への
ふれ ぜん と
プレゼントにしたりしていました。そして共に画家だった両親
も、大学で絵画を勉強する傍ら東洋美術や思想を研究し、
また父は柔道を習ったりもしていました。そうした両親の下、
わたし おきな ころ
私は幼い頃から東洋の話を沢山聞きながら育ちました。

わたし じしん だいがく だいがくいん ねんかん すうがく せんこう じょうほう
私自身は、大学、大学院の8年間、数学を専攻し、情報
しよらんあんぜんかくほ せんもん
処理安全確保を専門に勉強しました。しかしそれとは別に、
だいがく ころ
大学の頃から日本の歴史、文化、言語への関心が大きくなり、
どくがく にほんご べんきょう とうようぶんか しりょう と
独学で日本語を勉強し、東洋文化の資料を取り寄せる
などして研究する事を楽しみにしていました。「書」は
げんごせい
言語性もあるので外国人にはあまり一般的なものではなかつた
のですが、そうした中で「書」に出会い、これに一目惚
れをしてしまいました。そしてこれをやりたいと強く思ったの
です。大学院を卒業すると、自分が最もやりたかったこと、
にほんぶんか
つまり日本文化との出会いのために来日し、まず大阪の
にほんご がっこう
日本語学校で二年間勉強しました。その間、様々な日本
ぶんか
文化に触れる内に、書道への思いは確信となり、淡海書道
ぶんか せんもん がっこう
文化専門学校に入学することにしました。

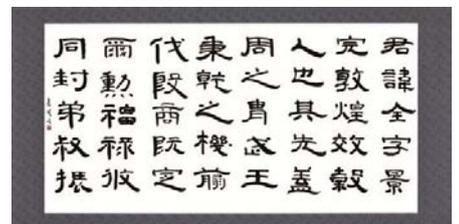
じっさい ほんかくてき じよどう
実際に本格的に書道をするのはこれが初めてでした。
かんじ ちゆうしん じよ
漢字が中心の「書」は、外国人にとって難しい場面もあ
りますが、漢字があるからこそ面白いと感じています。この学校
で書道を学ぶ中で、多くの良い人々との出会いもあり、書道

についての印象もどんどん幅広く豊かなものに膨らんでい
きました。そして、どうして私が書に惹かれたのかが理解で
きたのです。

しよ ちゆうごく う かんじ ぶんか とも にほん つた
書は中国で生まれ、漢字文化と共に日本に伝えられた
もじ ぞうけい びじゆつ ほか くに うつく もじ にか
文字の造形美術です。他の国にも美しく文字を書くという
ぶんか
文化はありますが、現代社会においては、書いたものが読
めれば良いという考え方が主流となっています。私の国で
も、ロシア帝国時代には身分の高い人達が字を練習してい
ましたが、社会主義の時代にこの文化は大切にされず、き
れいに書くという意識は希薄になっています。

しよ べん えんぴつ すみ きて つか か
書は、ペンや鉛筆ではなく、墨と筆を使って書くというこ
ろに大きな特徴があります。こうした用具を使用することで、
おお たいちゆう
描かれる線に太さや勢いなどの豊かな表情が生まれるため、
えが せん ふと いきお ゆた ひょうじよう
書は「線の美術」とも言われています。そして良い作品は
「自分の腕」だけでなく、「文房四宝」と呼ばれる筆、紙、墨、
すずり とうぐ とも う だ とうぐ
硯の用具と共に生み出されるとされており、こうした用具も
たいせつ
大切にされています。こうしてできあがった作品には、それ
じたい びじゆつせい
自体の美術性があるばかりでなく、「書は人なり」という言葉
があるように、書いた人の個性が表れ、その人の息づかいさ
え かんじ られるものとなります。さらにはそれを見る人も、作品と
む あ と き じしん こせい あらわ きようみぶか せかい
向き合う時、自身の個性も表れる興味深い世界です。

ふる れきし ぶんか じだい きまぎま じよほう
古い歴史のあるこの文化には、時代により様々な書法が
あります。中でも私が一番好きなのが、「隸書」で、昔官僚
が公文書を記すのに
もちい
用いていた書体です。
にほん たいしやうじだい
日本では大正時代の
かんげん せんえん きつ
看板や千円札の
「せんえん」という文字に
み
見られるきちんとした
じたい
字体です。



隸書で書かれたウソフさんの作品

しよ もと にほん き りゆうぐうじよう もど
書を求めて日本にやって来て、竜宮城からなかなか戻れ
ない「浦島太郎」※(次頁)のようになってしまいました。これ
からどんな道を進もうとも、書を学び続け、人生の友として
たいせつ
大切にしていきたいと思っています。そして機会があれば、
しよどう す ぼ ひろ つた
書道の素晴らしさを広く伝えていければ嬉しいです。